

建築主：南房総市

設計：株式会社榎本建築設計事務所

施工：株式会社熊谷組 首都圏支店

所在地：南房総市原岡88-2

わかりやすい建築

とみうら元気倶楽部



東側外観全景

とみうら元気倶楽部は、その形態の複雑さとは裏腹に、わかりやすい建築である。ややもすれば、設計者のデザインへの思い入れから過剰に操作された建築は、そこを訪れるものに混乱を招き、その饒舌な建築の表情に不快感すら与えることがある。とみうら元気倶楽部も、台形をベースに構成した平面やLVLをつかった木構造は、単純とは言いがたい。富浦ののんびりした景色の中に唐突な難解さが現れるかと思っていたが、実際には、台形の空間を集めたために出来上がった複雑な外周壁はそのへこみや出っ張りによって多様な外部空間を生み出し、単純な芝生の平面にヒューマンスケールのランドスケープをつくりだしている。

また、エントランスの脇には、デッキに続く足湯があり、外部と内部の繋ぎの空間となっている。足湯に腰掛ける人々の姿がこの施設への親しみを演出している。続くエントランスホールは、LVLの架構があらわしになっており、その構造の強さが空間に表情を与えている。そこからはあらかじめの所要室を認知することができる。複雑さが生み出す豊かさと、公共の施設としてのわかりやすさ（それは、快適さと言い換えることができ

ると思う）がバランスよく、同居した建築である。劇場は小ぶりながら、劇場らしい演出が施されている。ここでは毎年、人形劇の公演が行われるという。この劇場のしつらえは、設計者の全体を台形のピースで構成するというコンセプトからは逸脱して、円形の一部をそぎ落とした形をとり、劇場らしい雰囲気や優先している。このような、建築としてあるデザインのクオリティを保ちながら、部分で実際の使いやすさ、楽しさを優先させている。それは使用者にとってわかりやすい建築ということであって、これが公共建築にとって実はもっとも重要なことなのだと実感させる建築である。

（篠原聡子）



南側外観全景



ステージより劇場背面をみる

（撮影/篠澤建築写真事務所）